

午後 2 時30分 開会

○事務局（山根） それでは、失礼いたします。定刻となりました。委員の先生方にはご多忙のところご出席いただきまして、ありがとうございます。

早速ですが、ただいまから令和 7 年度第 1 回岡山市環境総合審議会を開催させていただきます。

（中略）

○藤原会長 藤原です。

本日は、めざす環境像ですね、こちらのほうを練り上げていきたいというふうに考えておりまして、前回までに各委員にアンケート調査をお願いして、それがまとまってきました。これまでいろいろ議論が進んできておりまして、今回は、それを総括して、環境像というのを決めることをゴールとしたいと思っています。

時間的に、今日決めないと、今後の予定というのがずれてきますので、どのような意見をしていただいても結構なんですけど、時間内にはゴールであるめざす環境像に到達したいと思っております。そこのところをご理解いただきまして、ご発言いただけたらありがたいです。

それでは、審議事項に入ります。審議事項ごとにご意見、ご質問をいただくこととします。委員の皆様には、議事進行にご協力よろしくお願いいたします。

それでは、議事事項につきまして、事務局からご説明をお願いします。

○事務局（友延） それでは、本日の最初の資料の説明につきましては、私のほうからさせていただきます。共有しますので、共有画面を立ち上げますので、お待ちください。

本日の審議会のゴール、今、藤原会長のほうからご説明いただきましたが、流れでパワポを、皆さんにお配りさせていただいている資料をパワポで指しながら説明させ

ていただけたらと思います。

本日の審議会ですが、前回、3月に審議会がありまして、そこで施策体系の骨子案の大枠についてということで説明をして審議をいただいたところですが、めざす環境像等を示さない形で説明をしたということもありまして、また多くの意見があったため、下記に書いたような整理をした上で、再度審議会を開いて骨子案を決定するというふうになり、今回の審議会を行うものでございます。

まず、各委員の皆様にはアンケートを実施して、意見を整理させていただきました。これはアンケートを実施させていただいたところです。ありがとうございました。

また、めざす環境像というのを示さなかったということで、皆さん、ここについて意見を出す機会がないということもありますし、バックキャストというのに、環境像を書いていないというのはいかがなものかということでありましたので、今回、お示しさせていただいて、今日、議論いただく。それを基に骨子案についても決定していただけたらと思っております。

第2次計画の成果と課題についての資料整理についても、宿題をいただいていたものにつきましては資料を作成し、アンケートの資料として送付させていただいておりますので、それをご確認ください。

本日の議題ですが、第3次環境基本計画骨子案の決定なんですけれども、まず、めざす環境像（案）をこちらのほうでつくりましたので、それに盛り込むキーワードについて、ご意見をいただいて取りまとめをしていただけたらと思います。

その後、文案についても、各委員の皆様からの意見もいただき、また会長と事務局で相談させていただきまして案をつくりましたので、それについての意見もいただけたらと思います。

また、アンケートでお答えいただいた環境目標（案）についての意見、多くの意見をいただいたところと、意見がなかったものとありますけれども、もう一度こちらで整理しまして文書をつくらせていただきましたので、これについても意見をいただ

たらと思います。最終的には、施策体系の骨子案の決定というところでお願いできたらと思っております。

まずは、この資料1という形でお配りさせていただいたものです。これを見ていただいて、めざす環境像に入れるキーワード。まずは、めざす環境像の文章につきましては、まだいろいろと言葉が整理、案をつくりましたけれども、まずはそこへ入れるキーワード、要はめざす環境像の考え方について説明をさせていただけたらと思います。

ここへ書いた図の中で、どんな要はキーワードを入れるというか、コンセプトを固めるという作業だと思いますが、これにつきましては、まずは前回お示しさせていただいた第六次環境基本計画、その内容を踏まえたものということで、青とか赤のところがキーワードと思っているところです。ウェルビーイングとか自然、脱炭素、循環経済のことについて、ここに上げております。また、次期岡山市総合計画について、将来都市像のキーワード案等も出てきましたので、それらについてここへ整理させていただきました。

環境についてのアンケート結果、これは前回お示しさせていただいてるものですが、災害が少ないとか、自然豊かというところが岡山のよいところとして上げられております。また、ワークショップの中で環境関連のキーワードで見ると、やはり豊かな自然とか、安心していきいき暮らせるまちの両立ですとか、そういう言葉が入っております。

将来都市像の総合計画のキーワードとして、今、これは案として示されているものの中には、幸福度、ウェルビーイングとか誇り、つながり、人が中心などの言葉がキーワードとして上がっているところです。

もう一つ、これも昨年度ご審議いただいたものと聞いておりますが、環境基本条例のほうの前文、この文章も一つ参考にしながら、その後つくる基本計画なので、これに関するキーワードは、めざす環境像と共有するものになるだろうということで書か

せていただいています。前文には、全ての市民の参加により、自然と共生し、環境への負荷が小さい、持続発展が可能な都市を実現するとまとめられております。その下は、基本理念という条項の中の文章です。

次に、今回のアンケート、また前回の審議会の中でめざす環境像として皆さんに上げられていた言葉、アンケートを含めて言いますと、E S D / S D G s、w e l l - b e i n g / 高い生活の質、変革、イノベーティブ、行動変容、市民参画。片仮名表記かどうかにつきましては、表記がいい、悪いと、両方の意見がありましたけれども、このような言葉、またはそのめざす環境像に盛り込んだらどうかというご意見をいただいております。

これを全部入れ込んでみますと、「すべての人の参加、人と自然との共生、物の循環と省エネルギー、環境保全を基調とした文化 持続可能な将来のためへの変革、生活の質・幸福度が向上するまち」というような、すごく長い文章になるんですが、もっとぎゅっと絞りまして、皆様に分かりやすい言葉でコンセプトをまとめるとしますと、キーワードの言葉としましては、下に掲げる6つのようなことをイメージする言葉で構成できたらと思って、まず提案させていただきます。

1 が共生、2 が循環、3 が持続可能性、4 が行動変容、5、幸福、6、参加。これらの言葉を組み合わせたものにできたらと思っております。

まず、ここまでのところでご意見をいただけたらと思います。

じゃあ、会長、お願いいたします。

○藤原会長 ありがとうございます。

それでは、ただいまのご説明について、質問がございましたら、あるいは意見がございましたら、お願いいたします。

まずは、今の説明で、めざす環境のキーワード案として、1 から 6 の言葉が示されましたけど、ここにたどり着くまでのご説明の中で質問とかありましたら。また、この6つのキーワードということで、納得いただけるかどうかということで、これにつ

いても質問等ありましたら、お願いします。

どうぞ。

○吉田委員 吉田です。

確認なんですけど、今、6つのキーワードをご説明いただいたんですけど、これ、何か順番に意味があるということがあるんですか。一応もういろいろこう、いろんなとこにご説明があった中で、気になったところを順番に拾われたのか、これの順、これを基に何かこう組み立てられるのか、そのあたりを確認したかったんですけど。

○藤原会長 事務局、お願いします。

○事務局（友延） 順番には特にこだわりはありません。

○藤原会長 ありがとうございます。

ほかにありますでしょうか。

じゃあ、またありましたら、質問していただくことにしまして、続きの説明をお願いします。

○廣本委員 すみません、よろしいでしょうか。

○藤原会長 はい、どうぞ。

○廣本委員 廣本です。

すみません、今年度から入ってるもんで、よく分かってないんですけども、このめざす環境のキーワードというのは、これは、もうここで決まりということなんでしょうか。私に関わってます気候変動とか、脱炭素のことがこれで内容が分かるのかなというのがちょっと疑問に思ったものですから。行動変容とか循環とか、循環の中にもやはり再資源とか再エネとかいうものが入ってるんですけども、それが一般の方々にそういうふうな理解をされるかどうかというのがちょっと気になったものですからお尋ねしました。

○藤原会長 ありがとうございます。

事務局から答えられますか。

○事務局（友延） めざす環境像の言葉、今、廣本さんが言っていたような循環とか行動変容のところに、特に脱炭素に関する意味合いを込めれたらというふうに思っております。

今回のめざす環境像と、私も今、昨年度の皆さんの審議の内容を一生懸命読みながら、追いつこうとしているんですけれども、前回の審議会の中で、こういう考え方で環境計画をつくるという話をこちらのほうから提案し、めざす環境像がない形で環境目標と基本目標を示したものを提示させていただいてたと聞いております。

そういう中で地球環境、循環型社会、自然環境、都市環境、生活環境と環境教育、行動変容という5つの分野に分けて、それをまとめるものを提示していなかったというふうなところを前回ご指摘いただいたと。なので、その5つのものをまとめたものとして、ここに書いているように、めざす環境像というものを提示させていただいて、ご審議いただけたらという内容でございます。

共生という言葉を入れるとか、そういうことではなく、さっき複数の言葉で同じ意味合いをイメージするような言葉があれば、それでも構わないと思っておりますので、ちょっとイコールの言葉にはなっていないかもしれませんが、6つ提案させていただきました。

○藤原会長 ちょっと補足いたしますと、今スライドで上がっている環境目標のところを見ていただくと、一番左に地球環境という言葉が入っています。今、議論しようとしてるのは、その上の部分ですね。めざす環境像という40文字ぐらいの言葉を今、考えようとしております。ですから、細かいところまで入り切らないので、じゃあ、どうして決めていくかというときに、この6つのキーワードに関連する言葉が入っていればいいんじゃないかというふうに考えたわけです。

ですから、今、事務局からおっしゃったように、この1番から6番の言葉を入れなさいということではなくて、こういう言葉の意味合いが入っているかどうかというのを評価のポイントにしましょうということでもあります。それで、この40文字ぐらいの

めざす環境像があって、その下に環境目標として個別のテーマみたいなものが配置されるということになっており、地球温暖化は、地球環境のところに入るんだということだと考えております。よろしいでしょうか。

○廣本委員 ありがとうございます。

○藤原会長 はい。じゃあ、ほかにございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○藤原会長 それでは、続きをお願いします。

○事務局（友延） 今、例えばこれは、また後でお話ししようと思ってましたが、廣本さんのお話があったので、例えばですけれども、これらのキーワードは、特に環境目標のこういうところへつながりが持てる言葉になっているんじゃないかということで整理したものもつくっております。

続きまして、実際のじゃあ具体的なコンセプトのところです。めざす環境像の言葉ですけれども、前回のアンケートで委員の方、お二人からも提案をいただいております。それを先ほどの6つのキーワード、おおむね先ほど皆さん、いいかなというところでいただいたのかなと思いますが、ためしにそれを第2次、現在の基本計画の文章と組み合わせてみると、こんなふうになります。前回の環境基本計画では、「豊かな自然と調和した持続可能なまちおかやま」というのがこの環境像として示されました。その中に、これは総合計画のほうで書いた文章なんですが、「豊かな自然と調和した市民の手による持続可能なまちづくり」というふうになっているのが現状です。この中には、共生、循環というのを豊かな自然と調和したというところで体现し、市民の手によるということが参加、そして、持続可能なまちづくりとストレートに持続可能性の内容を入れていたものになっていると分析させていただきました。

今回は、それにプラス行動変容とか幸福に関する、幸福というのはウェルビーイングですね、に関するようなものが入れられたらと思っております。

事務局案としましては、「自然との調和を重んじ 市民が中心となり 持続的に発

展する まち岡山」というものが一つ掲げさせていただき、次案として、「人と自然が織りなす 笑顔あふれる 未来を描き続けられる まちおかやま」。「人 もの 自然がめぐり とともに やさしい未来を つむぐ まち岡山」というようなものを皆さんの議論のたたき台としてつくらせていただきました。

もう一つ、委員案としまして、「人と自然が共生し 未来につなぐ 心豊かな まち岡山」と、「きれいな水と緑がいっぱいでほっとする、しかもまあまあ便利な奇跡のまち岡山」という、こういうご提案もいただきましたので、このあたりの言葉について、ご提案いただいた方にも意図のところを教えていただけたらと思って、5つ、今ここへ挙げさせていただいております。

ちなみに、ここの中に含めた言葉の体现としましては、色がきらきらして見にくいかもしれないんですが、こんな感じで考え、分析的に書いているところです。例えば、「自然との調和を重んじ 市民が中心となり 持続的に発展する まち岡山」というのは、発展というところで行動変容の意味合いを、「発展する」のところで行動変容、その先も幸福と書かずに、発展するというところでそこを示したらどうかという趣旨での提案です。

ほか、幸福、ウェルビーイングというのを笑顔とか優しさとか心豊かなという、便利とか、そういう言葉で表現したらどうかという意見、提案もありました。

こういうのを参考にして、皆さんが先ほどのご意見をいただいた環境目標のところも踏まえてみながら、それをまとめたものとして環境像をつくるとすれば、どんな言葉がいいのか、そのあたりのご意見をいただけたらと思います。

じゃあ、先生。

○藤原会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。どういうアプローチで環境像を集約していくかというところで、先ほどの6つのキーワードが含まれているという、そういうことをチェックしながら事務局案、委員案の何か書かれているものをまずはたたき台として見ていただい

て、ほかにもいい案があれば、提案していただいたらいいと思いますが。あまりたくさんあるのも、なかなか決めにくいということで、この5つの案というものを出示していただきました。

これについてご意見がありましたら、よろしくお願いします。

もう一回、資料にあります言葉を復唱しますと、1番は、「自然との調和を重んじ 市民が中心となり 持続的に発展する まち岡山」。2番が、「人と自然が織りなす 笑顔あふれる 未来を描き続けられる まちおかやま」。3番、「人 もの 自然がめぐり ともに やさしい未来を つむぐ まち岡山」。4番、「人と自然が共生し 未来につなぐ 心豊かな まち岡山」。5番、「きれいな水と緑がいっぱいあってほっとする、しかもまあまあ便利な奇跡のまち岡山」ということで、それぞれ個性が入っていると思うんですけど、いかがでしょうか。

原さん、お願いします。

○原委員 一番下の「きれいな水と緑がいっぱい」というのを、ちょっとふざけたような案だと思われると思うんですけど、出したのは私なんですけど、意図は、子供でも分かるようなということが一つと、それから、ありきたりな言葉だと、もう何かあまりキャッチーじゃなくて、あまり人目を引かないので、あえてお役所言葉じゃないようにしたんです。それで、今、見ると、決していい案だと思ってないんですけど、どこがよくないと思ってるかというのと、これからつくっていきなきゃいけないという、そういうところが入ってないなと思って。

私が今いいと思ってるのは、一番上のところがいいと思ってるんですけど、市民が中心となりというところですが、ただ、持続的に発展するというのが分からないだろうなというのを思います。

私が書いてる、しかもまあまあ便利なのというのは、便利とか豊かさをどんどん追いつめるんじゃなくて、そこそこ今便利なんで十分じゃないのかということをお願いしたいためなのと、それから、今現在、自然とか、便利さとかがあるこの岡山というのは、

私は本当に奇跡的だと思っていて、そのありがたさというか、これを本当に大切にしていかなきゃいけないし、もっとより、悪くならないように本当に努力しなきゃいけないということを言いたくて、奇跡のまちというのを入れたんです。そういうあたりが持続的に発展するということに盛り込めたらいいなと思って。持続的に発展するがちょっと分からないと思うんで、ここにいい言葉があったら、1番がいいなと私は思いました。

以上です。

○藤原会長 ありがとうございます。

今、この文言でこうしたほうがもっといいとか、何か、今見て、もしご提案があれば、付け加えたりしますけど、いかがですか。今の発展というところを何か入れるとか、つくっていかないといけないというところを入れなきゃいけないのかという話があったと思うんですけど。もしそういったものを入れて変えるとしたら、何か案とありますか。なければ、これでそのまま進めましょう。

○原委員 持続的に発展するという意図を優しく短い言葉で言う言葉が難しくて、自分でも分からないので、どなたか委員の方々、事務局の皆さん、いい言葉がもっとあったら。ここだけ変えたらいいなと思って。何かよりよくできたらいいなと思って。

○藤原会長 ありがとうございます。

○赤井委員 もう一つの委員案が赤井がつくったんですけど、こんなふうに分けるとは思ってなかったのですが、市民の手によるというところをどういうふうに入れるかというのは、なかなか難しかったので。でも、6つの中のところでいうと、大体入れていたかなと思って、50点ぐらいはもらえるんじゃないかなと思うんですけど。いろいろな、今、原さんが言われたように、例えば「重んじ」とかというのも、さっきの子供のところでは、ちょっと何か文語的な感じになるなというのは、そこで大切にしたりとか、そういうふうなので柔らかくするというのもいいかなと思いました。

もう直接的に「市民の手による」としっかり入れてるというのは、これは、市民が当事者であるということをはっきり表しているのです、私の案の中にはそこが入ってなかったのです、これがちょっと失敗だったなと思ってるんです。もし事務局案のところでいうんだったら、持続的というところを何かもう一個柔らかくするといいいかなと思うんです。

○藤原会長 池本先生、お願いします。

○池本委員 持続的に発展するという言葉をもう少しみ砕いて言うと、例えば、よりよく暮らしていくとか、よりよく暮らすといった表現もあるのかなと思います。

○藤原会長 ありがとうございます。

例えば言葉でいくと、「よりよく暮らす まち岡山」という、そういうふうになりますかね。持続可能が後ろに来てるとすると。「よりよく暮らせるまち」ですか。暮らせるまち。よりよく。

田代先生。

○田代委員 少し観点が異なるんですけども、この環境基本計画自体、岡山市が策定している総合計画ですかね、これを受けて策定するものかと思うので、当然、基本計画の内容もこの総合計画に沿うものになるということが前提だと思いますし、逆に言うと、ここで書いてることが総合計画と食い違ってくると、何かちょっとおかしいことになるということが基本的な点なのかなと思います。

それを踏まえて、この持続的に発展する、確かに分かりにくい言葉だなと思うんですけども、別のニュアンスが混じるとかになってくると、それはそれでどうかなという気がするところなんで、ここを何かみ砕くのであれば、総合計画のほうでどういう言葉が言い換えとして使われてるのが重要になってくるかなとも思いますし、やはり持続可能なんかは、持続的に発展するみたいなことがメインで使われているので、そうであれば、分かりにくいですけど、ニュアンスは分かるので、そのままでも別にいいんじゃないのかなと個人的には思ってます。

以上です。

○藤原会長 ありがとうございます。

総合計画との絡みということが一つ最初にありましたが、そちらのほうは、今、どういうスケジュールで、それからどういう手順で議論が進んでいるのかということちょっとご説明いただけますか。総合計画が決まって、それに合わせた形で決めていくという、そういうのが理想ですけど、そういうスケジュールになっているのかどうか、説明をお願いします。

○事務局（友延） 総合計画が決まってから基本計画が決まるという流れではなく、並行して作業が現在、行われているところです。今、将来都市像として出てきているのは、先ほど皆さんに環境基本計画の環境像として6つと言いましたが、こういう言葉がウェルビーイング、誇り、つながり、人が中心というふうに出されているだけの状態です。その後につく政策体系案というところは、各局で議論して、今、環境局だと、この3つ、人と自然が豊かに共生する環境をつくり、脱炭素社会を目指す環境にやさしいまちづくり、みんなで住める循環型社会の構築ということで、今、これを政策局へ返している段階で、最終的に統合されていく流れになります。

○藤原会長 総合計画が決まってからの環境像づくりということではないわけですね。歩調を合わせてということですが、情報としては、今、事務局から説明があった、こういうものが議論されてるといえるのか、上がっているということでもあります。それを、そこだけを踏まえて考えなきゃいけないということになっています。

それから、子供たちに対しても分かりやすくという意見が出ておりますが、総合計画とあまりにもかけ離れるというのも、ちょっとおかしいことになるかなと思っていて。分かりやすいにこしたことはないんですけど、整合みみたいなものも考えたほうがいいと。あまり法律文書用語だと固い感じがするけど、一方で子供に分かりやすい言葉を選ぶのは難しいというところもあるので、その中間をどこに探すかということがこの議論の中にあると思います。

ほかにご意見ありますでしょうか。

はい、どうぞ。

○吉田委員 今、整合性というお話がありましたけれども、この環境基本計画の上には、基となるのは岡山市の環境基本条例との関係も考えていかないといけないと思うので、そこからあまりはみ出してもいけないと思うんで。今の事務局の案と皆さん、委員さんの案というのは、その範囲には入っているのかなということは思います。

あと、分かりやすさの話が今あるんですけど、環境像だけ分かりやすくするのか。例えば、環境基本計画をつくった上で、その計画を子供たちにも分かるようにするのかというところは、ちょっと分けて考えたほうがいいのではないかと思います。

○藤原会長 ありがとうございます。

はい、片岡委員、お願いします。

○片岡委員 どれぐらい分かりやすくするかとかという議論の中でなんですけど、先ほど持続的に発展するという言葉を、例えば、心地よく住み続けるまち岡山とか、何かもう少し持続的発展というのが、自分たちの生活の何かイメージにつながるような言葉であり、かつ計画やその後の計画などとあまりこう違わないような言葉にするといいのかなとちょっと思いました。

私は、原委員の一番下の出していただいた案は、すごくいいなと最初思ったんです。なぜ思ったかというところ、ちょっと環境に対して興味を持てるなという言葉だったので、すごく引っかかりがあっていいなと思ったんですけど。ただ、ちょっと今までの議論の中で行くと、政策とかその後の計画とかアクションとかというところに具体的に結びつけていくという意味では、1番の案がいいなというふうに思った次第で、「持続的」のところを「心地よく住み続ける」とかという言葉がいいのかなと個人的には思っていました。

以上です。

○藤原会長 ありがとうございました。

ほかに、氏原先生、お願いします。

○氏原委員 氏原です。

皆さんの議論を見てて、なるほどと思ってたんですけど、僕自身も市民が中心となるというのは、重要なワードかなと思ってるので、これはぜひ入れていきたいなと思ってて。例えばですけど、今思ったのが、「市民が中心となり、優しい未来をつくるまち岡山」、でもいいのかなと思ったんですが、そうすると、共生と循環が入ってこないのは、これは環境像としてまずいのかなと思う。共生と循環というのは、やさしい未来という中に含まれているという解釈もできるのかなと思いながら考えたんですけど、そのあたり、いかがでしょうか。提案です。

○藤原会長 ありがとうございます。

「やさしい未来をつくるまち岡山」ですけど、やさしい未来をつくるというのは、多分、ここの環境だけじゃなくて、開発関係、都市整備関係、全てやさしい未来をつくるという言葉でうまく表せるんですけど、環境審議会において、環境という言葉とゴールの未来というものが結びついているかどうかを議論いただけたらなと思います。

例えば、私、一番最後の原さんの意見で、しかもまあまあ便利なという、便利というのと環境がどう結びついているのかですね。やさしい未来と環境というのが、どう結びついているのか。環境がよくなれば、よい未来ができるとか、便利になるというようなことはよく分かるんですけど、そのところが、それぞれの言葉を吟味していくときに、どれぐらいここの環境審議会の環境という言葉と関連するのかなというところが私が思った意見です。ということです。

ちょっと漠然としてますけど、ゴールは別に環境がどうこうということよりも、ウェルビーイングという言葉があるぐらいですから、それによりどう心地よく生きることということというふうに考えれば、これはいいかも、いいということになるし、言葉を選ぶときに、さっきのキーワードと強く関連づけるんだということ、どうかなとい

う気も私はいたしました。個人の意見です。

ほかにございますでしょうか。忌憚ないご意見をいただいて、議論を闘わせた上で最終的な目指す環境像を決めたいと思っております。ですから、議論をどんどん言っていただけたらいいと思います。

○小野委員 いろいろ皆さんのご意見を聞きながら。私、最初にこの5つのめざす像というのを聞かせていただいたときに、1つすごく気になる言葉があつて。それが「つむぐ」っていう言葉だったんですけど、すごく優しくて。今を維持しながら、さらに積み重ねていくっていうような意味があるような気がして、どこかにこの言葉が入ったら、今、既に岡山っていい環境にあると思うんですよね。これをさらによくしていく。積み重ねていいものにしていくというような意味をどこかに入れたらいいんじゃないかなと思ひながら聞かせていただきました。

以上です。

○藤原会長 ありがとうございます。

「つむぐ」というのが非常に優しくて、幸福に結びつく言葉ではないかと。それ、結構多くの方はそう思われてるんじゃないかと思ひます。1番の「やさしい未来をつくる」というか、「やさしい未来をつむぐ」というのが3番にもありますから、さっきのやさしい未来は、「つむぐ」のほうがベターかなと。「つくる」よりはね。思ひます。ありがとうございます。

妹尾委員、何かご意見ございますか。

○妹尾安裕副会長 大きな意見はないんですけども、「やさしい未来」のこのやさしいという言葉、やさしいでは何を指すのか、ちょっと難しいところもあつて。ありきたりですけど、住みよいかという言葉もあるのかなと。

○藤原会長 住みよい。ああ、はい、ありがとうございます。

先ほど心地よく住み続けるという言葉が提案されましたけれど、それに近いですよね。住みよい。心地よく住み続ける、住みよい。ありがとうございます。

○廣本委員　すみません、さっき小野先生がちょっと言われたんですけれども、子供らでもという岡山の状況をおっしゃったかなと思うんですけど、このままだったら持続可能性がないと思うので、やはりもっと私たちの生活を見直していかないといけないという意味のものが入れられたらいいかなという。どういう言葉がいいのか、ちょっと分からないんですけれども、その辺をもうちょっとこだわって入れていけないものかなと思ったりしています。

○藤原会長　ありがとうございます。

持続可能という言葉が、それが分かるような何かいい言葉があるといいですねと。持続可能と書くと、何か直接的だという話、ご意見もいろいろいただいてるので、何かそういうところでご提案をいただけたらと思います。

○池本委員　「やさしい未来」ですか、すごいパワーワードだと思いました。

○藤原会長　そうですか、はい。

○池本委員　これって、先ほど氏原委員も入れたんですけど、ウェルビーイングともつながっているということで、全ての共生とか循環とか幸福とか全てひっくるめて説明するんじゃないかなと思います。

以上です。

○市委員　私は、本当によく分からないんですけど、以前もそういう活動をずっとしてきて。地域にキャッチフレーズをつくろうよということで、住んでみたい、住みたい幡多学区というふうなキャッチフレーズをつくったんです。それは、安心・安全なというものが地盤にあったんですけど、いまだに住んでみたい岡山っていう、もっともっとたくさんの方がつながっていこうよという気持ちもあるんで、そういう言葉をつけて、今なお何かあると発言するようにしてるんですけど。その辺が入ればうれしいなと。

○藤原会長　ありがとうございます。

○市委員　それから、もう一つみんなが言ってたのは、すごく気候もいいし、地域も

いいと。健康な岡山っていう、健康であることが一番なんだということ、そんなアンケートを取ったときに出てたように思うんで、入ればうれしいなと。健康であるから元気であるんだという、その辺が入れば、うまく。

○藤原会長 ありがとうございます。

健康って、ウェルビーイングの中で一番大切な話ではありますね。

ほかに、これは言っときたいという意見をぜひお願いして、もうこれで尽きましたら、この中から言葉を選ぼうと思います。

○妹尾桂名委員 私もちよっと難しいなと思って聞いているんですけども、やさしい世界という言葉がすごくいいなという思いと、描き続けられるというのがすごく何か分かりやすいなというか、何かいいなという、本当に個人的意見なので、そこは入ったらいいなと思いました。

○藤原会長 ありがとうございます。

それではここで整理をしたいと思います。

1 番、「自然との調和を重んじ」のフレーズですが、重んじはちょっと重いから、これを「大切にし」という意見がございました。「市民が中心となり」という、参加というところで、こういう言葉はいいんじゃないかというご意見はありました。それから、「持続的に発展する」の持続的というのは分かりにくいという表現であるということがございました。そういうのが1 番のコメントでございます。

それから、ここでもう説明しちゃいますけど、「持続的」に代わる言葉。持続的という言葉に代わる言葉として、「やさしい」、「未来をつくる」とか「未来をつむぐ」というような意見。それから、「心地よく住み続けられる」、「住みたい」、「住んでみたい」、その中で健康という言葉も入れれないかと。ここら辺が持続的とか、あるいは幸福につながる言葉ではないかという意見がありました。

2 番目ですが、「人と自然が織りなす」というフレーズですが、「描き続けられる」という言葉がいいというご意見がありました。

3 番目、「人 もの 自然がめぐり とともに やさしい未来を つむぐ まち岡山」、先ほどにもありましたけど、「やさしい」という言葉がいいとか、「やさしい」あるいは「住み続けたい」というような言葉。それから、「未来」ですね。それから、「つむぐ」というようなキーワードがいいんじゃないかというご意見がありました。

4 番ですが、「人と自然が共生し 未来につなぐ 心豊かな まち岡山」ということで、「未来につなぐ」とか、さっきの「未来をつむぐ」とか、似たような表現がございますし、共生という言葉がさっきの持続と同じで分かりにくいんじゃないかという、そういうのもありました。

それから、5 番ですね、「きれいな水と緑がいっぱいでほっとする、しかもまあまあ便利な奇跡のまち岡山」ですが、提案者としては、画期的な、使われてない、驚くような言葉を用いたらどうかという観点からつくりましたと。子供が分かるように工夫しましたということですね。

私からコメントさせて、まあまあ便利なのというところが、どう環境と結びついているのかというところが分かりにくいんじゃないかという意見をさせていただきました。

それが皆さんの意見を集約した結果となっております。この中で決めていくわけですが、ほかに意見が、1 つずつ見ていきたいんですが、「市民が中心となり」とか、あるいは「市民の手による」という、ここの部分、参加の部分は、特に異論は皆さんなくて、こういう市民というキーワードを入れてはどうかということですから、ここ、これについては、皆さん、よろしいでしょうか。

○吉田委員 よろしいですか。

○藤原会長 いいですか、はい、どうぞ。

○吉田委員 今、ちょっと聞きながら思ったんですけど、例えば市民が中心だったら、市民が主役ということなんですけど、例えば市民とともにとかというのは駄目

なんですか。

今思いついたんで、練れてないんですけど、例えば一番上の事務局案や皆さんの議論を聞いて思ったのが、例えば「自然との調和を重んじ 市民とともにつくる これからも住み続けたいまち岡山」とかですね。みんなとともにつくるというのを案として提案させていただきました。

何か皆さん、住むというとか、持続可能なというのをどうするかなと思ったときに、まず一つは、多分共生とかということで、自然との調和を重んじ、自然と、人と自然が共生しでもあるかもしれませんが、市民とともにつくるでは、持続可能性と住みやすいというのをよく議論の中に出てきたので、「自然との調和を重んじ 市民とともにつくる これからも住み続けたいまち岡山」を提案させていただきました。

○藤原会長 ありがとうございます。

関連したご意見とかありますでしょうか。

私が今のご意見についてちょっと思ったのは、市民とともにつくるとした場合の主語は何か。

○吉田委員 そこは私もあって。

○藤原会長 市役所はというふうになってしまうと、ちょっと限定的かなと。

○吉田委員 そこが私も練れてなくて、市民が中心となり、何かつくるというのを入れないと、この最後につながらないのですが、それを言ったら意見が言えないので、入れたんですけど。

○藤原会長 ありがとうございます。

よろしいでしょうか。ほかに今の吉田委員の意見に対して、何かご発言ありませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○藤原会長 そうしましたら、進めなきゃいけないので、ここは市民という言葉のフレーズは入れるということで、細かい表現については、後で最終的にどうしましょう

かと相談したいと思いますが、市民が入ってくるということは、皆さん、特に異論はないかと思います。

それから、その次ですね、自然との調和というところで、1番、2番、3番、4番、みんな「人と自然」とか、「自然との調和」とか、それと「人 もの 自然」で、5番はその表現を「きれいな水と緑」という表現にされておりますが、このところも、もう決めてしまってもいいんじゃないかというふうに思っております。いかがですか。

上からもう一回言いますと、「自然との調和を大切にし」、さっきの大切というのをいただいて「大切にし」。それから、2番が「人と自然が織りなす」。3番が「人 もの 自然がめぐり」、ここでものという言葉が入っているので、「もの」、ちょっと循環に関係するフレーズかなと、言葉かなと思ってます。4番が「人と自然が共生し」、そして5番が「きれいな水と緑がいっぱい」というものですが。

5番は、表現がほかと全く違うので、そこの部分をどうするかということですが、いかがでしょうか。多分、5番は、もうこういう方向で行きますといたら、そういう方向で議論しないと、ほかのものとちょっと視点が違うというか、書き方が違うので、そこの部分、原さんはそういうところを、そういう子供の分かるような表現ということで書かれていますが、いかがでしょうか、そのところ。私は、個人的には、案としてたくさん出ている自然という言葉を入れてもいいかなというふうに思いますが、いかがですか。よろしいですか。

○原委員 私は、1番の「自然との調和を大切に」という、「し」だと、そこで一つ区切れちゃうので、一番大切なところは、市民が中心となって、持続的に発展する、言葉は別にして、こちらのほうに重きを、中心を置くためには「自然との調和を大切に」で止める案を出したいです。

○藤原会長 ありがとうございます。

ということで、自然という言葉を入れて、人が入ってるか、あるいは自然との調和

という言葉ですけど、人というのは、入れる必要があるんだと強くご意見される方、いらっしゃいますか。要するに、人と自然という言葉ですね。人というキーワードを入れたほうがいいのか。これは、入れたほうがいいという意見の方、いらっしゃいますですか。

人というのと、市民というところで、また人が入ってくるので、二重で入る可能性があるのです。

○赤井委員 人は要らないと思います。

○藤原委員 要らないでいいですか。

○赤井委員 「自然と～」というところで、もう誰にとって思うと、人しかほかにいない。

○藤原委員 そうですね。ありがとうございます。

じゃあ、人はもう要らないということで、自然との調和、自然とものというのは、ちょっと循環という意味ではいいんですけど、ここは、単純に豊かな自然とか、自然との調和でよろしいんじゃないかなと思いますが、いかがでしょうか。

○藤原会長 じゃあ、例えば1番の「自然との調和を大切に」、あるいは「大切にし」という言葉。それから、「市民が中心となり」、あるいは「市民とともに」、あるいは1番の「市民の手による」という言葉もまだありますので、そういうのが入ってきて、その後、ここが非常に重要な議論になると思うんですけど、1番、「持続的に発展する」のところを、もう少し分かりやすい、優しい言葉にしたらどうか。

「未来」というのがさっき意見としてありましたし、「つむぐ」が優しくていいとか、ウェルビーイング、幸福につながる言葉じゃないかという話があったので、案としては、「やさしい未来をつむぐ」というのがおおむねの意見。ただ、「やさしい」というところを「住みよい」という言い方に変えるという案もありましたので、そこら辺、深く議論したいと思いますが、いかがでしょうか。未来という言葉で持続可能性というのを表してるし、つむぐという言葉で幸福を表しています。

ただ、さっきの意見で、行動変容、何か変えなきゃいけないんじゃないかという、そういうパワーをどこで表現するのかというところが議論になるかなというふうに思っています。

○赤井委員 よりよいとかみたいな。変化に。

○藤原会長 よりよい、そうですね。

○赤井委員 変化を表す。今よりいい、よりよい未来をつむぐみたいなの。

○藤原会長 よりよい未来、よりよいという言葉で……。

○赤井委員 変化。

○藤原会長 変革を表そうという今、ご意見が出てまいりました。いかがでしょうか。よりよい。確かに。進歩するという、そういう意思が見えますね。

○原委員 よりよいという言葉はいいんですけど、ただ、普通の人が聞いたときに、よりよい未来というのは、より豊かなとか、より福祉の充実したとか、いろんな方向によりよいつてありますよね。ここでの環境基本計画というの、環境の分としては、もう少し絞るというか、持続可能なほうに誘導するような言葉のほうがいいんじゃないかなということを思い、私も自分が最初、持続的に発展するは分かりにくいんじゃないかと言ったんですが、最初のほうで委員がおっしゃってくださった、あまり言葉を変えないほうがいいんじゃないのかというご意見もあったんですが、持続的に発展という言葉よりも、持続可能な未来のほうが、より一般的にはなっているのかなと思うと、何かまた元に戻るようなことなんです、「持続可能な未来をつむぐまち」とか、もう元に戻して、元の言葉に戻して、持続可能なという言葉にしたらどうかというのも思っています。

○藤原会長 ありがとうございます。

今2つ意見が出ていて、新たな意見として、持続可能を入れて、「持続可能な未来をつむぐまち」という意見が出ました。その以前の意見は、よりよいと入れましょうということですけど、基本的にはより何とかという。例えばよりやさしい未来でもいい

いわけですね。よりよい、やさしい未来にしなくても、よりやさしい未来とか、より何とかな未来。やさしいのか、より住みやすいなのか。やさしいの表現には幾つかありましたけど、よりという言葉を追加して、その変容の意識を表すというのは一つあるかなというふうには思います。

○廣本委員 私も持続可能な未来を目指さないといけないわけなので、原さんが言われたその言葉は追加したいな、いいなというふうに思います。

○藤原会長 分かりました。ありがとうございました。あえて「持続可能な」を入れるというご意見ですね。

片岡委員、いかがですか。先ほど住みやすいという、住み続けられるでしたですかね。特に住宅とも関連してると思う部分ですが。ご意見として。

○片岡委員 住み続けるというところが持続的というところと変えたらいいかなと思った理由としては、何か持続的なのという言葉は結構行政言葉というか。だから、どちら方向に行くのかなということだと思うんですね。別に持続可能なということが悪いということではなく、誰に向けたメッセージにしていくかということなんじゃないかなと。

具体的に、ただ、言葉の部分であり、言っている内容というのは、恐らく全ての文章で変わりなく、具体的なアクションみたいなものはその後の計画目標とかという、とかゴールというところにつくっていくと思うので、この言葉っていうのがどういう意味を持たせるか。特に取っかかりのような形で市民の人たちが環境計画に興味を持つような言葉なのか。そうではなく、割と分かりやすいというか、全体を意味する言葉にしてまとめるのか、そういうところなのかなというふうに思っていて。今出ている意見、特に反対ということはなく、どういう方向へまとめていくかということになるのかなというふうにお聞きしてて思いました。

以上です。

○藤原会長 ありがとうございました。

田代先生、お願いします。

○田代委員 持続可能な未来というのが、具体的にどのようなものかというのは、個別の政策によっても違うでしょうし、その状況でも変わってくる、より開発を抑制したほうがいいということもあるでしょうし、そうじゃないこともある。結局のところ、何をもって持続可能な未来に一番近いのかというのはケース・バイ・ケースだと思うので、少なくとも環境基本計画の段階では、こういうふうに具体化してしまうよりは、いろいろな意味を含み得るような、持続可能なという言葉をもそのまま使っておいたほうがよいのではないかなという気がいたします。

具体的などというふうにしていくかというのは、個別、非常に具体的なレベルの計画で詰めればいい話ですので、要するに持続的に発展するとか、持続可能な未来って具体的にどのようなものかというのは、もっと下のレベルの計画でより具体的な問題をベースに考えればいいと思うので、ここでは、原委員が先ほどおっしゃっていただいた「持続可能な未来をつむぐまち」ですか、でよいのではないかと私は個人的に思う次第です。

以上です。

○藤原会長 ありがとうございました。

今のご意見で、私もSDGs、それからESDを言ってる岡山市ですから、持続可能という言葉は子供たちにもぜひ理解してほしいというふうに思いまして。これは、ちょっと難しい言葉だけど、ぜひそこは親が子供に説明してもらおうと。なぜここに1つだけ難しい言葉が入ったのかというと、それが岡山市にとっては非常に大事だし、持続可能という言葉は、社会にとって重要だというような観点。

それから、具体的な政策については、環境目標とか、あるいはその下のレベルで、各部局で具体的な目標を掲げるということであるので、環境像としては、持続可能でという言葉で置いておいてもいいんじゃないかとご意見をいただきました。ありがとうございます。

いいですか、ここで少し一度整理させていただきますと、「自然との調和を大切に」あるいは「大切にし」、「市民が中心となり」あるいは「市民とともに作る」あるいは「市民の手による」。そして、持続可能という言葉を入れて、「持続可能な未来をつむぐ」、つむぐという言葉は入れさせていただいて、「まち岡山」というのが全体の意見として強かったかなというふうに思います。

「自然との調和を大切にし 市民が中心となり 持続可能な未来をつむぐ まち岡山」と。なかなかよくなってきたと思いますが。じゃあ、それを基にして、その修正案をするということで。これは細部が問題であれば提案していただくようにして、取りあえずまとめとして、そういうふうにいたしましたという。

○事務局（友延） ありがとうございます。

今日、途中からなんですけど、ゼロカーボン推進課のお二人にお越し、次の温暖化の計画も並行してつくっておりますので、参加いただいています。

ご紹介させていただきます。

○藤原会長 ご紹介をお願いします。

○宮本課長 ゼロカーボン推進課長の宮本と申します。よろしくお願いします。

○藤原会長 はい、お願いします。

○鷲尾課長補佐 同じくゼロカーボン推進課の鷲尾と申します。よろしくお願いいたします。

○事務局（友延） では、先生、併せて前回お示しさせていただいた、あと30分の時間なんですけれども、今のも共通のところがあると思いますが、もう一度共有します。

今、新しい環境像についてまとめていただきましたので、それを踏まえて、前回、お示しいただいた環境目標について文書、これもいろいろなご意見をアンケートでいただきました。そこについて、まだ言葉の細かいところは今後素案をつくったり、原案をつくったりするところで修正可能ですので、全体的な今日のご意見をいただい

て、それを基に次の作業に移りたいと思いますので、説明させてください。

5つの分野で今回の施策体系をまとめるといふ、こちらですね。資料の2というのを各委員の皆様にはお配りさせていただいております。その内容についての再説明になります。環境目標は達成されている状態を提示するという事で、前回、このような、前回、次ですね、示させていただいたものにご意見をいただきました。

変えたものを読ませていただきますと、地球環境のものにつきましては、2050ゼロカーボンシティをめざした脱炭素の取組により、環境負荷の少ない社会への転換が進んでいるまち。循環型社会は資源の循環利用とごみの発生抑制を進め、循環型社会を実現しているまち。ただ、この2つにつきましては、もっと直接的にCO₂排出量が削減しているまち、ごみ処理量が削減されているまちというふうに書いてもいいんじゃないかというご意見をいただいております。

次、自然環境につきましては、自然と共生する取組により、生物の多様性が地域の豊かさにつながっているまち。都市・生活環境は、安全で快適なまちづくりにより、人々が暮らしに高い生活の質を実感しているまち。最後、行動変容につきましては、市民協働で創造的な取組が生まれ、環境課題の解決が図られているまちというふうに修正を加えてみました。

これらにつきましては、ご意見、いただいた意見はそれぞれありまして。すみません、チャットが出ておりました。すみません。ご意見、いただいた意見の中で、言葉が重複して、提案いただいたものをほぼそのまま語順等をそろえさせていただいたものもありますし、関係課と相談して変えたものもございます。なるべくイノベーティブとかパートナーシップは難しいというご指摘もいただいたので、そこは使わないような形で表現できたらと思ったというところと、これは状態ということなので、直接的な成果目標そのものを入れるよりは、その状態、まちの状態とか、暮らしの状態を書くということで前回提案させていただいたので、いろいろご意見をいただいておりますが、現時点では、そういう形で整理したものを上げさせていただいております。

その下の基本目標も分かりにくい表現があったり、岡山市になじまない言葉があるのではないかというご意見をいただいておりますので、整理して、各項目3つ以内ということで整理をしています。

この基本目標の下には、各施策をこれから、該当する施策が何がここに該当するものがありますかという形で、この後の各課のほうへ意見照会をかけさせていただく、その枠組みになるものと思ってください。

地球環境のところは、省エネ及び再エネ導入の推進と脱炭素型まちづくりの推進、気候変動適応策の推進というふうに書いてます。次は資源化・3R+Renewableと廃棄物の適正処理。自然環境は、多様な自然環境の保全と創出、野生生物の保護と適正管理、生物多様性を重視した地域づくりの推進。都市・生活環境は、水と緑あふれる魅力ある空間づくり。安全で快適な生活環境を維持したまちづくり、歴史・文化遺産の活用と継承によるまちづくり。5番目が体験と学びを通した環境保全の担い手づくり。市民とともに進める環境に配慮したくらしづくり、環境保全を促進する仕組みや制度の整備。

言葉の表現とか、まだまだ統一する時間がありますが、取りあえずこういう形で整備し直しましたということで説明させていただきました。

時間が短いんですけども、皆さんのご意見が反映されてるかどうかも踏まえて、皆さんのご意見をいただけたらと思います。

○藤原会長 ありがとうございます。

それでは、ご意見ありましたら、よろしくお願いします。

特に関心の高い自分が関係してる項目ですね、見ていただきまして、ご意見ありましたら、お願いします。

○事務局（山根） 池本委員が手を挙げてます。

○藤原会長 池本委員、お願いします。

○池本委員 すみません、池本です。

今、見せていただいている環境目標なんですけれども、1から5までありまして、3番の自然環境ということなんです。3の自然環境以外は、それぞれ環境目標の評価基準というんですか、評価がしやすいといいますか、目標を挙げられていると思うんですけれども、3の自然環境については、自然と共生する取組により、生物の多様性が地域の豊かさにつながっているということで、どのように達成されているかどうかの評価をどうしたらいいのかなというふうに思ったんですけれども。ちょっと具体性がないかなと思って言ったんですけれども、すぐ思いつかなくてですね。そのあたり、岡山市様のほうでどのような評価があると思われていますでしょうか。

○藤原会長 ありがとうございます。

環境目標のほうに、豊かさにつながっていると書いてあるので、それを示せるようなものが多分ないといけないと。

○事務局（友延） ここで提案なんです。成果目標、実際達成されているCO₂の排出量の削減とか、ごみ処理量の削減というのは、ここへ入れるのではなく、成果指標、この後つくりますので、そちらのほうへ入れることにさせていただいて、ここはもうちょっと広く状態を示すような言葉に統一したいと思ってます。

なので、いろいろ少し、先ほどのよりは少し狭まりますけれども、いろいろなまちの状態をイメージできるような、曖昧ではありますが、そういうほうがというような形で出しておると。

○藤原会長 ありがとうございます。

池本委員、今後、そういう評価の指標については議論する場があって、それは、この環境目標の言葉を厳選するときには細か過ぎて、それはまた後日というふうに事務局のほうは考えているそうなんです。納得いただけましたでしょうか。

○池本委員 分かりました。

○藤原会長 ほかにございますでしょうか。

○廣本委員 1番の地球環境のところなんですけれども、3つとも推進してあるんで

すけども、促進という言葉に替えるというのはどうなのでしょう。推進のほうがいいですかね。

○宮本課長　そうですね、すみません、言葉について具体的にいうところは、今は議論を経てこの言葉を選んでもいいわけではないんですが、基本的に促進というのは促すということを進めているものであります。推進というのは、推し進める、より強くそういう導入等々について進めていくという言葉の意味になりますので、推進のほうが適切ではないかと今は考えておるところです。

○廣本委員　推進のほうがより強いんですか。

○宮本課長　促進は、促すことにとどまるので。

○廣本委員　そうなんですか。

○宮本課長　はい。と考えておりますが。

○廣本委員　分かりました。ありがとうございます。

○藤原会長　ほかの基本目標にも推進という言葉で何か統一されてますね。

○事務局（友延）　そうですね。

○氏原委員　5番のところの環境教育／行動変容のところですけど、環境目標のところは、市民協働とか、あるいは5－2のところに市民とともにあるんですが、先ほどの環境像のところで、市民が中心となりというようなワードを使っていきたいという話というか、方向性になっていたような気がするんで、ここは市民協働とか、市民とともに、つまり行政が市民とともにみたい、そういうようなイメージも湧くので、もう市民が中心となるとか、そういう表現に変えたほうがより環境像との整合性が出るんじゃないかなと思いました。

○藤原会長　参画というよりは、市民が積極的に進めていくという、そういうニュアンスを入れたほうがいいんじゃないかという。

○氏原委員　そうですね。

○藤原会長　検討いただけますか。

○事務局（友延） はい。全体像にそろえる形での修正が必要だと思います。

○氏原委員 行動変容という言葉、多分私が前回、強く言った言葉だと思うんですけど、どのような意図で言ったかというのと、これまでがまずかった。だから、これから変わらないといけないという意味で行動変容って使ってるんですね。だから、そういうようなニュアンスがどこかでうまく伝わればいいなと思ってるんですが、それを環境目標のところに入れるか、基本目標のところに入れるか、もう少し下位のところで具体に入れていくか正直悩んでいます。

環境像のところでも、つむぐという表現で、つくるという表現は、実は意図的にやってて、つむぐって、これまでを何か肯定してるような表現だと感じたので、ではなくて、これまでを変えるという意味でつくるという表現を使ってみました。ただ、各委員さんのお話を聞いてると、つむぐでもいいのかなというふうに思ったんで、特にコメントしませんでした。環境目標か基本目標、あるいはそれよりも少し下の段階で、市民が変わらないといけないというメッセージは、どこかで伝えるべきかなと思っています。

以上です。

○藤原会長 ありがとうございます。

行動変容の意図というのを説明されましたけど、何かそういうのを踏まえて大きく変えていく必要があるという、そういうのを目標の中に組み込めるかというふうに聞きましたけど。

○事務局（友延） そうですね。この中では、転換とか、地球環境のところの、というところに少し変容に関する言葉を入れておりますが。ちょっと全体を見て検討させていただきます。

○氏原委員 例えば、5－3のところの環境保全を促進する仕組みや制度の整備、制度の整備というところに、行動変容をうまく入れるとかということはできるかなとはちょっと思いました。

○事務局（友延） なるほど。ありがとうございます。

○氏原委員 細かいところは検討いただければ。

○事務局（友延） はい。

○藤原会長 ありがとうございます。

○原委員 物すごく細かいことなんですけど、5－1のところに、担い手づくりというところなんですけど、これは育成のほうがいいんじゃないかと。人間だから、まちづくりとか空間づくりとかとは違って、担い手は育成のほうが言葉としてはいいんじゃないかなというふうに、ニュアンスですが、思います。

それから、環境保全だけでなく、さらに環境創造ぐらいの意味合いも必要になってくると思うので、守ればいいというわけじゃないから、そういうニュアンスが入るといいなということはと思いますが。

○藤原会長 原さん、ありがとうございます。

5－1、担い手の育成と。育成とした場合は、担い手が既にいるという前提の話ですか。づくりというのは、普通の人から担い手を見つけたり、つくり上げるという、そういう趣旨が入ってるのかなと思いましたが。

○事務局（友延） そうです。

○藤原会長 そこら辺のとこをしっかりとした目的を事務局のほうでもう一回練っていただけますか。

○事務局（友延） はい、分かりました。

○藤原会長 ありがとうございます。

それから、もう一つは、環境保全を促進するという、保全じゃなくて、創造するんだということですが、そういうダイナミックに変えるとか、変革するということ。さっきの行動変容もありましたけど、もう少し強い言葉で書いたほうがいいんじゃないのかという委員のご意見だと思うんですけど、ここについても、ぱっとここで決められないようであれば、少し検討していただいてという、そういうことでよろしいでし

ようか。

○事務局（友延） 趣旨は。

○原委員 もう一点。今さら駄目なのかもしれないんですけど、5番のタイトルのところは、環境教育・E S Dとかにはもうできないんですかね。

○事務局（友延） 別にできるんじゃないんですかね。

○原委員 できたら、岡山市なんで、E S Dをこのタイトルのところにも入れてもらったら、そういう大きな、環境だけじゃない、大きな深い意味があるということも伝わるかなと思うんですけど。

○事務局（友延） 相談します。

○原委員 お願いします。

○事務局（友延） 田代さんから。

○藤原会長 E S Dというのは、ちょっとごめんなさいね。環境教育（E S D）では済まない。エデュケーション・フォーですから。

変容という言葉は入れといたほうが私はいいと思いましたけどね。

○事務局（友延） 入れるところを考えさせてください。今は基本目標のところへE S Dって入れてるんですけど。あまり長い言葉にはしたくないので。

○藤原会長 はい、分かりました。

田代委員、お願いします。

○田代委員 2点ありまして、1点目が、これまでの議論を蒸し返す感じになってしまったら恐縮なんですけれども、4－2とか4－3というのは、環境問題の地続きであるとはいえ、防災ですとか、歴史・文化の継承とか、厳密に言うと、ちょっと違う話も含まれてくるのかなと思うんですが、ここら辺、守備範囲みたいなのをどういうふうにお考えなのかというのを伺いできればと思います。

2点目が、環境保全の担い手というのが、どういうものを想定してるのかなと思ひまして。何かプロフェッショナルの育成みたいなのが念頭にあるのであれば、担い手

づくりという言葉は確かにちょっとおかしいのかなという気もするんですが。体験と学びを通して市民の意識改革みたいなのを図るんだみたいなことを念頭にあるのであれば、そもそも担い手という言葉自体が何か不適切なのかなという気もしますし。この点は、市民との協働ということに関して、どういうビジョンを持ってるのかということと関わってくるのかなと思いました。

以上です。

○藤原会長 ありがとうございます。

○事務局（友延） はい。4－2は、大気、水、いわゆる安全で快適な生活環境を維持するところには、水質とか大気、騒音など、環境の基盤になるようなものの維持保全についてのものを入れる予定です。歴史・文化のところは、景観及び文化創造的な快適環境、まちづくりに関するものの中で景観とか、景観を踏まえて歴史とか、文学のまちづくりですとか、そういうもので環境に関するものも考えられるので、そういう分野のものを入れていくような意味合いで考えてます。

ちなみに4－1のほうは、緑化、緑の基本計画関連とか、グリーンインフラに関するものが入るといふふうに考えてます。

確かに担い手のところは、リーダーシップみたいな感じに取られるかもしれないなと今思いました。もっと広い意味での環境保全の行動意識の変容ということも含めて考えています。

○藤原会長 ありがとうございます。

ただいまの事務局の説明でご理解いただけましたでしょうか。

○田代委員 よろしいですか。

○藤原会長 はい。

○田代委員 1点目の件なんですけれども、4－2、そうすると、何か4－1と結構内容がかぶってくるのかなと思ったことと、4－3は、景観の問題のみなんですかね。

それ以外にも広くという感じですかね。

○事務局（友延） 今の基本計画にも入ってるんですけども、歴史関係や文化的景観ですとか、まちづくりに関するような、ちょっと広い意味での景観ですね。

○田代委員 分かりました。ありがとうございます。

○藤原会長 ありがとうございます。

じゃあ、5－1については、環境保全の担い手というところですね、どういう人を育てるということなのかというところをはっきりとさせていただいて、ここの表現を変える。変えるというか、ちょっと変えていただけたらと思います。ありがとうございます。

○片岡委員 4－3の歴史・文化資産の活用と継承によるまちづくりというところについては、ここに確かに環境目標として入れるべきなのかというのは、私も疑問に思うところがありまして。その前に、安全で快適なまちづくりにより、人々の暮らしに高い生活の質を実感しているというところの関係性でいうと、最近こういう岡山、後楽園の周辺とか旭川の周辺とか、もともと西川緑道の周辺とかで、割と市民参加のいろんなイベントとかがされていて、そういうところが生活の質等を実感しているというところが結びつくのかなと思うんですけど、あまり4－3のような活動というか、そういうものは積極的に今のところでは行われていないし、行っていくような、何か目標に入れるべき内容なのかなという。ほかの都市でこういうことを上げているから、岡山市も上げようというような感じに見えてしまうなというのが個人的な印象です。

以上です。

○藤原会長 ありがとうございました。4－3。

○事務局（友延） むしろ今、岡山は歴史、文化推しというところがあるので、ここに上がってくるものはある程度あるのではないかなという思いでは現在あります。

○片岡委員 それであれば、もう少しその先ですよ。ここの具体的な部分というのがこの後だと思うんですけど、示せるということで理解いたしました。

○事務局（友延）　そうですね。次を見ていただいて、また議論いただけたらと思います。

○藤原会長　片岡委員、ありがとうございました。

それでは、ほかにご意見ありますでしょうか。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○藤原会長　たくさんの意見をいただきまして、ありがとうございました。よりよいものになっていくと思います。

それでは、事務局のほうでまた検討いただきまして、修正案がありましたら、また示してください。

それでは議論のまとめと。「自然との調和を大切に　市民が中心となり　持続可能な未来をつむぐ　まち岡山」と、これを原案として、残り時間少ないですが、もし何かご意見がありましたら、お願いします。

よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○藤原会長　特にご意見ないようでしたら、これを環境像とさせていただきたいと思います。どうも皆さん、ありがとうございました。時間内に作成いたしました。ご協力ありがとうございました。

○事務局（友延）　今までのところの骨子案として次の施策の内容のほうを作業に移らせていただくということでよろしいですか。

○藤原会長　はい。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○藤原会長　はい、じゃあ今日の結論を基にして、次のステップに進んでいただくと。また、それをお示しいただいて議論するという形にさせていただきます。

(以下略)

午後 4 時28分 閉会